

「次期推進計画」のビジョン及び柱について（計画策定部会における議論を踏まえて）

【基本的な考え方】

前提

個性あふれる多様な大学が集積し、大学の枠を越えた多様な学びや活動が活発に展開されていることが「大学のまち・学生のまち」京都の原点であり、更なる発展に向けて極めて重要



検討の視点と方向性

【柱立て】

- 現計画策定以降の社会情勢、各大学へのアンケートやヒアリングの結果を踏まえると、現計画の6本柱の変更や新たな柱の設定が求められるような情勢の変化は見受けられない。
⇒ 現行プランの6本の柱を継承する。

【大学間連携（インターカレッジ）】

- 各大学が「やりたいけれどもできない」部分を大学間連携でサポートすることにより、京都全体としていろいろな大学が活性化し、大学のまち京都の発展につながる。
- 大学コンソーシアム京都を中核に、その機能を補完する形でさまざまなインターカレッジな枠組みを位置付け、アカデミック・インフラとしてノウハウをオープンにし、共有することが重要。
- 学生目線でインターカレッジ型の多様な学びや活動をどうデザインするかが重要。
⇒ 各大学が健全な競争の中で切磋琢磨しつつも、「大学のまち」ならではのインターカレッジとしての機能を追求していく。

【文化】

- 文化庁の京都への全面的な移転の決定を受け、京都市においては文化を基軸としたまちづくりを一層推進していくこととしており、文化を継承・創造・発信する拠点としての大学、文化の担い手としての学生が果たす役割はますます重要になる。
⇒ 文化を新たな柱とするのではなく、6本の柱の基盤に文化があり、それぞれの柱に文化の要素を入れながら、同時に大学・学生をコアとした文化を創造していく。

【「次期推進計画」の柱】（素案）

グローバルなアカデミック文化の創造

- アカデミック文化の創造
大学に求められる役割＝「真理の追究」「次の社会を担う人をつくる」
「グローバルが進む社会の変化に対応するとともに、地域に根差した伝統を受け継ぎながら新たな文化を創造」
- 学生たちが新たな文化を創造する
若者のチャレンジに寛容、（東京と異なり）地域に密着してゆったり学べる環境
＝「大学のまち・学生のまち」として育まれてきた京都の文化



大学政策（6つの柱とまちの将来像）					
6) プロモーション戦略の強化					
	5) 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化 「学生が主体的に活動し、輝くまち」				
		4) 大学との連携による経済・文化・地域の活性化 「産学公地域連携による活力にあふれたまち」			
			3) 学生の進路・社会進出の支援 「京都で学んだ学生が生き生きと活躍するまち」		
				2) 大学・学生の国際化の促進 「グローバルな視野を持った若者が集い、育つまち」	
					1) 学生が学ぶ環境の充実 「京都で学ぶ魅力を実感できるまち」

【目指すべきビジョン】

